

<全体分析>

試験時間 60分

解答形式 全問マーク式

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加) 昨年と同じく、大問5題・小問40問。

難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化) 「やや易」の問題がなかったが、「難」の問題がなくなったので、昨年度よりもやや易化した。

出題の特徴や昨年との変更点

地域：欧米史3題、アジア史2題。昨年度と異なり、欧米史の割合が高かった。

時代：近世史の出題が多かった。古代史の出題がなかった。

その他トピックス

特になし。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	マーク空所 マーク正誤 マーク設問	中世西ヨーロッパの社会と経済	全てが、社会経済史の出題であった。封建的主従関係について誤文を選ぶ②は、解答となる短文の正誤判定には迷うが、消去法で解答したい。	標準
II	マーク空所 マーク正誤	『百科全書』の編纂とルーヴル美術館の開館	17・18世紀のヨーロッパでの知的関心の高まりを背景とした動きとして、フランスにおける『百科全書』の編纂とルーヴル美術館の開館を扱う。出題の中心は、フランス絶対王政と復古王政までの政治史。難易は標準的。	標準
III	マーク空所 マーク正誤	ムガル帝国の衰退	アウラングゼーブ死後の状況とイギリス東インド会社の進出を扱う。インド史だけでなく西アジア史も出題。一部の教科書のみ記述などにもとづく空所補充・短文が多い。空所イのアフシャール朝は、消去法で解答できる。ブクサールの戦いやマドラス管区などの語句を含む⑥の正誤問題は難問。	やや難
IV	マーク空所 マーク正誤	宋代・明代の江南	ほとんどが社会経済史の出題。一部の教科書のみ記されている事柄を含む短文もあるが、解答となる短文の正誤判定が難しいわけではない。	標準
V	マーク空所 マーク正誤	第二次世界大戦後のヨーロッパ統合	ECとEUの結成を中心に、関連する事柄を扱う。解答となる短文の正誤判定は難しくなく、全体の難易度は標準的。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

本学の入試問題は、様々な地域・時代から幅広く出題されるので、苦手な分野をなくすことが重要。短文正誤問題の割合が高いので、用語だけを覚えるのではなく、誰が・いつ・どこで・何を・どうしたのか念頭に置いて学習して欲しい。正誤問題の全てが誤文選択であり、正誤判断に迷う短文が多いが、解答となる短文の誤りがはっきりしているものが多いので、教科書に記載されたことがらを確実に頭に入れることが第一である。また、同じようなテーマが繰り返し出題されることが多いので、過去の問題の学習を徹底したい。